

第 3 回 堺市中学校給食検討懇話会次第

日時：令和 2 年 3 月 3 日(火)午後 3 時～

場所：堺市役所 本館地下 1 階 地下会議室 1

1. 開会

2. 協議事項

- 仮称「堺市中学校給食改革実施方針」の作成に向けて
 - ① 日本一『安全安心な給食』の実現について
 - ② 生徒が喜ぶ『おいしい給食』の実施について
 - ③ 『あたたかい』給食センターについて
 - ④ 小学校から中学校へ『途切れのない食育』の推進について
 - ⑤ 給食実施までの中学校の体制づくりについて

3. 事務連絡

4. 閉会

第1回堺市中学校給食検討懇話会意見（要旨）

- 衛生管理が持続的に担保される調理方式であること
- 中学生にとって栄養バランスがとれたおいしい給食が提供できること
- 全ての中学校で同時期に給食実施が開始でき、公平性が確保できること
- 早期に実現可能な調理方式であること
- 調理施設で働く人の意識の向上・維持ができること
- 小中学校で途切れない小中一貫した食育が推進できること
- 安全安心な給食提供と食育の推進に向け、栄養教諭の意見を取り入れること
- イニシャルコスト・ランニングコストと調理方式の合理性・妥当性があること

第2回堺市中学校給食検討懇話会意見（要旨）

- 小中一貫校を除いては、可能であれば調理方式は統一してほしい。
- 給食が始まっている中学校と始まっていない中学校が混在すると、学校や保護者は困るので、開始時期が一斉となる給食センター方式がよい。
- 自校・親子・給食センターなどを組み合わせた方式にすると、管理する調理施設が増える。調理施設が一番少ない給食センター方式で管理する方がよい。
- 広々とした自校調理場を建設できるのであれば、自校調理方式と給食センター方式を組み合わせた方式でも良いが、現実的には難しいので、作業区域ごとに完全区分されている給食センター方式がよい。
- 堺の『安全安心な給食』を実施するためには、集中的な管理ができる給食センター方式を取り入れた方がよい。
- 自校方式は一人ひとりの子どもの顔が見える印象があり、給食センターはその印象がない。堺がめざすべきは、一人ひとりの子どもの顔が見える『あたたかい』給食センター、人間味のある給食センターである。
- 親子方式では、献立内容は小学校と同じで量が多くなる。献立内容が小学校と全く一緒というよりは、中学生に合わせた献立内容にして欲しい。
- 子どもたちの健全な発達を願う関わる人々の思いの詰まった『おいしい給食』を提供してほしい。
- 全員喫食制の中学校給食が始まるまでに、中学校での給食指導のあり方や食育推進について事前に検討してほしい。
- 中学校の学校現場で食育について情報発信する中核となる栄養教諭を中学校に配置することで、さらに食育は進んでいく。
- 中学校の子どもたちに献立に関する意見を吸い上げて、献立の改善に生かしていくような栄養教諭の配置が必要である。
- 国の負担で配置されている栄養教諭だけではなく、全員喫食制の中学校給食実施を契機に、市費で栄養教諭を配置していくことを検討されたい。
- 調理施設で働く人の意識の向上が大事であり、給食センターで働く人がワンチームとなってまとめ、そこに栄養教諭の活躍も輝けるようになってもらいたい。